

関谷喜三郎教授定年退職記念特集

「現代消費社会と日本経済」

関谷喜三郎先生は、令和3年3月に定年退職を迎えられました。日本大学商学部において、専任講師として教壇に立たれてから42年間、学生から最も慕われてきた先生でした。学部では経済学、経済原論、ミクロ経済学、マクロ経済学、経済政策、大学院商学研究科では理論経済学特殊講義を担当されました。個人としても、受講した学部、大学院での講義は、大変に知的刺激を受けるものであったと記憶しています。

関谷先生の研究領域は、大きく2つに分けられます。20代から30代の助手時代から助教授の時代には、ケインズの貨幣経済分析に理論的基礎をおくポスト・ケインズ派経済学の立場から、ケインズ経済学を生産・貨幣および期待を取り扱う貨幣的生産経済の理論として再構成するための研究に従事しました。特に、ラトガーズ大学へのご留学でポスト・ケインジアンの中核的研究者であるポール・デヴィッドソンの指導を受ける機会を得て、ケインズ再解釈に関する研究に取り組んできました。関谷先生は、当時の日本における第一線のポスト・ケインジアン研究者に名を連ねていました。特に関谷先生が翻訳されたV.チックの『ケインズとケインジアンのマクロ経済学』（共訳）は大著であり、当時の最先端の理論を研究することができました。

40代以降は、ケインズ経済学に基礎をおきながら、日本経済の動向に関する研究を行ってきました。特に、消費需要に焦点を当てた消費経済分析に取り組み、日本消費経済学会を中心として学会報告と研究成果の発表を行ってきました。この日本消費経済学会におきまして、2008年から3年間、副会長を務めた後に、2011年から3年間、学会長として、日本の消費経済研究の発展に貢献されました。その後も現在まで研究を深められてきて、今までの消費経済研究の集大成として、2019年に創成社から『消費需要と日本経済』を刊行されました。

また商学部における教育活動に関する特筆すべきこととして、公務員試験の指導に力を注がれてきたことがあります。ミクロ経済学やマクロ経済学などの教育活動や熱心な試験指導を通して、商学部の多くの学生を、国税専門官などの国家公務員試験や地方公務員試験に合格させてきました。さらに商学部の就職指導委員長として、幅広い業種に多くの商学部の卒業生を送り込んでこられました。

本特集号は、関谷先生の長年にわたる教育・研究の貢献に報いるために、日本大学商学部と大学院商学研究科出身の大学教員、および商学部の経済学関連科目担当教員を中心にご執筆いただきました。令和2年度は歴史に残るパンデミックの年となり、令和3年度の現在も新型コロナウイルス感染拡大が続いております。初めてのオンライン授業にかなりの時間を費やされながらも、『何があっても研究を諦めない』という強い意志でご執筆いただいた先生方に、関谷先生ともども心より敬意を表したいと思います。

日本大学商学部教授 安田 武彦